

令和4年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 生活デザイン科



香川県立高松南高等学校

生活デザイン科

◎科の目標

- ・家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本の知識と技術を学び、生活産業の社会的な意義や役割を理解し、社会の発展を図る創造的な能力と態度を身につけた人材の育成を目指します。
- ・「フードデザイン」「服飾文化」「子どもの発達と保育」「生活産業情報」「課題研究」「さぬきの生活伝承」「生活産業基礎」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「健康栄養コース」「服飾デザインコース」「保育子ども文化コース」の3コースに分かれて学習します。

◎資格取得、進路

- ・家庭科技術検定（食物・被服・保育）、秘書技能検定、ビジネス文書実務検定
- ・大学、短大、専門学校への進学、各種企業への就職

①健康栄養コース

◎「調理」「フードデザイン」「栄養」「食品」など食物に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			家庭総合				生活産業情報			服飾文化		フードデザイン		L H R
2年	現代文A		日本史A		数学Ⅰ		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎		子どもの発達と保育		服飾文化		フードデザイン			調理		さぬきの生活伝承		L H R	
3年	国語表現		世界史A		政治経済		数学A		化学基礎			体育			コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究			調理			栄養		食品		食文化 生活教養 和		L H R	

②服飾デザインコース

◎「ファッションデザイン」「ファッション造形」「服飾手芸」など被服に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		家庭総合					生活産業情報		服飾文化		フードデザイン		L	H	R
2年	現代文A		日本史A		数学Ⅰ		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎		子どもの発達と保育		ファッション造形基礎			ファッションデザイン		フードデザイン		さぬきの生活伝承		L	H	R
3年	国語表現		世界史A		政治経済		数学A		化学基礎 ----- 生物基礎		体育				コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究			ファッション造形					服飾手芸		食文化 ----- 生活教養 ----- 和		L	H	R	

③保育子ども文化コース

◎「子ども文化」「子どもの発達と保育」「服飾文化」「フードデザイン」など保育に関する基礎的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		家庭総合				生活産業情報		服飾文化		フードデザイン		L	H	R	
2年	現代文A	日本史A			数学Ⅰ		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎		子どもの発達と保育			子ども文化		服飾文化		フードデザイン		さぬきの生活伝承		L	H	R
3年	国語表現		世界史A		政治経済		数学A		化学基礎 ----- 生物基礎		体育			コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究			子ども文化			フードデザイン		食文化 生活教養 和		器楽演奏		L	H	R	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	現代文A	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深める。 生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
授業計画	1学期 ・ 随想 「なぜ『コロンブスの卵』を描くのか」 ・ 評論 「数え方で磨く日本語」 ・ 小説 「調律師のるみ子さん」 2学期 ・ 詩 「永訣の朝」他 ・ 小説 「ナイン」「こころ」 ・ 評論 「花女房」 3学期 ・ 随想 「出島のチューリップ」 ・ 小説 「山月記」
学習方法と アドバイス	予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。 授業を大切に積極的に参加し、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめて発表する。 辞書を引くことや音読・朗読を習慣化する。 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。 新聞を読むことを習慣化するなど、日常生活の中に、読む・書く・話す・聞くを積極的に取り入れる。
評価の観点と 方法	「現代文A」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【書く能力】必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させているか。 【読む能力】近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【知識・理解】言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（漢字、暗誦等）、作文・読書感想文・スピーチ、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「現代文A」第一学習社 副教材 「新版五訂カラー版 新国語便覧」第一学習社 「漢字の学習」香川県高等学校国語教育研究会

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	日本史A	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	1 世界史と関連付けながら、我が国の近現代史を理解する。 2 身近な生活文化や地域社会の変化などに関わるテーマを設定し、追求することによって、歴史的な見方や考え方を身につける。 3 資料を活用し、課題を解決する能力を身につける。
授業計画	1学期 歴史を考察する方法 大日本帝国の誕生《幕末～明治》から、明治政府の外交政策を学習 大日本帝国の展開《大正～第二次世界大戦》 2学期 日本国憲法と戦後の世界《戦後～平成》 3学期 大日本帝国の誕生《幕末～明治》から、1学期の内容以外を学習 ※テーマ学習（衣食住の変化、交通・通信の変化、風習と民間信仰、産業技術の発達と生活、地域社会の変化などからテーマを選び、調べ学習・発表）を、各学期の学習内容に合わせて随時取り入れる
学習方法とアドバイス	授業に積極的に参加し、「なぜ」「どうして」そのような歴史的な事象がおこったかを考える。 復習に役立つようなノートづくりを心がける。 疑問に思ったことや課題を、資料を利用して調べ、まとめ、発表する。 提出物を、わかりやすく丁寧にまとめて、期限を守って提出する。 本やテレビ、近隣の資料館、民俗行事など、身近にあるもののなかで、歴史にふれ、関心をもつ。
評価の観点と方法	「日本史A」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】日本の歴史に対して関心を持ち、授業に意欲的に取り組めたか。 【思考・判断・表現】日本の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察して、その過程や結果を適切に表現できたか。 【資料活用の技能】日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ることができたか。 【知識・理解】日本の歴史についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身につけることができたか。
使用教材	教科書『高校学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来』第一学習社 副教材『詳説 日本史図録 第8版』山川出版社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
保健体育	体育	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
授業計画	4月 体づくり運動 5月～7月 体づくり運動 Ⅰ期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 9月～11月 体育理論 Ⅱ期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 体づくり運動 12月～3月 体づくり運動 Ⅲ期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道
学習方法と アドバイス	選択種目については、教師の指導・助言を受けながら、各自・各グループで以下のような要領で自主的に学習を進める。 ・自分やグループの状態に適した目標の設定をおこなう。 ・その目標を達成するために、具体的な運動の課題を把握する。 ・その運動の課題を解決するために、合理的な練習計画を作成する。 ・計画にもとづいて実行した結果を評価し、つぎの課題や目標の修正に生かす。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】・・・種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組んでいるか。個々の役割を自覚しその責任を果たし互いに協力して種目に取り組んでいるか。活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して種目に取り組んでいるか。 【思考・判断】・・・種目の問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【運動の技能】・・・個人技能、集団技能など各技能のポイントをどのように習得しているか。 【知識・理解】・・・種目の特性や課題・合理的な練習の仕方を理解し、実践に生かそうとしているか。種目のルールや競技・審判の方法を十分理解するとともに、学習の中で効果的に活用することができるか。
使用教材	教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 ステップアップ高校スポーツ 大修館書店

	種目（課題設定）	自己評価
1学期		
2学期		
3学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
保健体育	保健	1	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。
授業計画	2単元 生涯を通じる健康 1. 思春期と健康、2. 性への関心・欲求と性行動 3. 妊娠・出産と健康、 4. 避妊法と人工妊娠中絶、5. 結婚生活と健康、6. 中高年期と健康、7. 医薬品とその活用、 8. 医療サービスとその活用、9. 保健サービスとその活用、10. さまざまな保健活動や対策 3単元 社会生活と健康 1. 大気汚染と健康、2. 水質汚濁、土壌汚染と健康、3. 環境汚染を防ぐ取り組み、 4. ごみの処理と上下水道の整備、5. 食品の安全を守る活動、6. 働くことと健康、 上記内容を随時学習していく。
学習方法と アドバイス	1. 予習について 多くの時間は必要ないが、ほんの10分でもいいから授業前に教科書に目を通しておくことが大切である。 2. 授業について 授業中は、ノートに要点を素早く記入し、先生の説明を聞き逃さないように注意すること。
評価の観点と 方法	評価の方法 【意欲・関心・態度】・・・積極的に授業に参加し、健康問題に直面させ、生活との関連や課題の解決方法を考えさせる。 【思考・判断】・・・問題解決を目指して自ら考え授業で学んだ知識を活用できるか。 【知識・理解】・・・健康問題に必要な基礎的、基本的な知識が身についているか。 以上の観点等と定期考査（各学期末考査 1回 計 3回）授業の観察・レポート提出・発表などを通じて評価する。
使用教材	教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 最新高等保健体育ノート 大修館書店

考 査	試 験 範 囲	自 己 評 価
1学期期末		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	音楽Ⅰ	2	2年	生活デザイン科	選択

学習目標	幅広い活動を通して音楽の諸能力を伸ばすとともに、それぞれが持つ興味・関心や個性を生かし、音楽と主体的に関わることにより、感性を高め、豊かな情操を養う。
授業計画	－ 1学期 － ○歌唱 「校歌を歌う」「ポピュラーソングの斉唱」 ○器楽 「ギターの基本」「ギターによる単旋律の演奏」 ○鑑賞 「ミュージカル」「様々なジャンルの鑑賞」 ○創作 「簡単なリズム創作」「リズムアンサンブル」 － 2学期 － ○歌唱 「ポピュラーソングの合唱」 ○器楽 「伝統音楽と和楽器（三線）」 ○鑑賞 「オペラ」音楽史 － 3学期 － ○歌唱 「外国語の歌唱にチャレンジしよう」 ○鑑賞 「歌舞伎」
学習方法と アドバイス	○「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」のそれぞれの内容において、与えられた課題を計画的に取り組む、楽曲等を完成させます。 ○楽曲等の練習に際しては、常に技術の向上を心掛け、自発的な表現の工夫など、創造的な活動を積極的に行うことが大切です。 ○レポート等の課題は、丁寧に取り組み、期限を守って提出すること。
評価の観点と 方法	「音楽Ⅰ」では以下の4つの観点から評価する。 【音楽への関心・意欲・態度】 音楽の諸活動において興味・関心を持ち意欲的に取り組む態度を身につけている。 【音楽表現の創意工夫】 音楽の諸活動において技術や知識を習得し、それらを臨機応変に思考、判断し表現できる。 【音楽表現の技能】 歌唱や器楽演奏において基本的な技術を身につけた上で、自己の感性を働かせたり、イメージしたりして自分なりに表現できる。また、鑑賞においては感じたことを言語等で表現できる。 【鑑賞の能力】 音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢や態度、ノートや学習プリント等の提出状況と内容、楽典などの小テスト、歌唱やギターなどの実技テスト等で総合的に評価する。
使用教材	教科書「MOUSA 1」、ノート 授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	美術Ⅰ	2	2年	生活デザイン科	選択

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
授業計画	—1学期— <絵画> ・よく観て描く ・色彩について —2学期— <デザイン><立体> ・立体造形Ⅰ <鑑賞> ・日本の美術 —3学期— <絵画> ・絵画Ⅰ <鑑賞> ・世界の美術				
学習方法とアドバイス	絵画・デザイン・立体などの制作を通して、ものの見方・とらえ方・描き方や、色彩の知識・用具の使用法等の基本的なことからについて学習し、創造的な作品を制作する。 鑑賞では、ビデオ・スライド・作品を観てワークシートを書き、提出する。 各課題は計画的に丁寧に取り組み、期限内に提出すること。				
評価の観点と方法	「美術Ⅰ」では以下の4つの観点から総合的に評価します。 【美術への関心・意欲・態度】 美術や美術文化に関心を持って、主体的に、表現と鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 【発想や構想の能力】 感性や想像力を働かせて、創造的な表現の構想を練っている。 【創造的な技能】 創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫している。 【鑑賞の能力】 美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。				
使用教材	教科書「高校生の美術1」（日本文教出版）、中学で使った絵の具セット、授業プリント				

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等				
1学期					
2学期					
3学期					

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	書道Ⅰ	2	2年	生活デザイン科	選択

学習目標	○書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てよう。 ○感性を高め、書写能力の向上を図ろう。 ○表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばそう。 ○書の伝統と文化についての理解を深めよう。
授業計画	－ 1学期 － ○楷書の学習 ○篆刻の学習 － 2学期 － ○行書の学習 ○隷書の学習 ○漢字仮名交じりの書の創作 － 3学期 － ○仮名の学習 随時：硬筆
学習方法と アドバイス	1つの課題を3～5時間ほどで終え、作品を提出します。作品提出の期限を守ることは勿論ですが、それぞれの課題（単元）の目標に近い作品を作るように努力してください。1枚でもたくさん書きましょう。グングン力が伸びます。
評価の観点と 方法	<授業の取り組み> 【書への関心・意欲・態度】書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。 <作品による評価> 【書表現の構想と工夫】書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか。 【創造的な書表現の技能】創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表しているか。 【鑑賞の能力】文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっているか。
使用教材	教科書「書道Ⅰ」（教育出版）、授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	① 英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ③ 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。
授業計画	1学期 Lesson 1 Birthdays, Here and There Lesson 2 The Emerald Isle 2学期 Lesson 3 The Sagrada Familia Lesson 4 Nobel Prize Episodes 3学期 Lesson 5 Flowers in the Tomb *実際の授業は種々の都合によりこの通り行われないことがある。
学習方法と アドバイス	① 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。 ② 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。 ③ 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。 ④ 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。
評価の観点と 方法	コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。 【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。 【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト、出席状況等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 VISTA English Communication II New Edition 三省堂 副教材 VISTA English Communication II New Edition Workbook 三省堂 デュアルスコープ総合英語 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	英語表現 I	2	2 年	生活デザイン科	全員

学習目標	① 基礎的な文法事項に関する知識を身につける。 ② 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書くための基礎的な能力を伸ばす。 ③ この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
授業計画	1 学期 LESSON 1 : 自己紹介～ LESSON 8 : パーティー 【肯定文／否定文】 【疑問文／命令文】 【5 文型】 【There is～】 【現在形／過去形／進行形】 【未来形】 【現在完了形】 2 学期 LESSON 9 : 料理～ LESSON 16 : 文化祭 【助動詞】 【受動態】 【to-不定詞】 3 学期 LESSON 17 : ホームステイ～ LESSON 22 将来の夢 【動名詞】 【分詞】 【比較／最上級】 【関係代名詞】 ＊状況に応じて LESSON をピックアップしながら進めていく。
学習方法と アドバイス	文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理する。（復習が大切） それらの知識を活用して、初級レベルの英作文に取り組む。（予習が大切） 基本的な表現を口頭で再生しスピーキングの能力を高める。（復習が大切） 様々な場面に相応しい表現ができるように、簡単な自由英作文にも取り組む。（予習が大切）
評価の観点と 方法	英語表現 I では次の観点から評価する。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習・復習や辞書を引くことが習慣的にできる。 【外国語表現の能力】 授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】 教科書の説明を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年 5 回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト、出席状況等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 Vivid English Expression I 第一学習社 副教材 Vivid English Expression I WORKBOOK 第一学習社 チャート式 デュアルスコープ総合英語 五訂版 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	生活産業基礎	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	生活にかかわる産業によって家庭生活が支えられることを知り、生活産業や関連する職業に関心を持ち職業観や勤労観を身につける。生活産業の各分野で、スペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な知識と技術を習得しようとする意欲をもつ。
授業計画	1学期 1 生活と産業 2 社会の変化と生活産業 3 生活産業と職業 ・衣生活関連分野 繊維産業、アパレル産業、衣類販売、ブライダル産業、美容関係等に関連する職業のうち、和服の着付けを取り上げ、社会人講師による着付けの実習をする。 2学期 ・食生活関連分野 ・住生活関連分野 ・ヒューマンサービス関連分野 秘書検定対策 3学期 4 職業生活と自己実現 ・職業生活が自己実現につながることを認識し、専門科目の学習と職業生活とのかわりや、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てる。
学習方法とアドバイス	・社会人講師による授業や産業現場等の見学で生活産業への関心を高める。 ・秘書技能検定受験を通して社会人としての常識・マナーを身につけ、自ら考え行動する姿勢を身につける。
評価の観点と方法	「生活産業基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 生活産業に関する知識や技術に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 生活産業基礎に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現することができるか。 【技能】 生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身につけ実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する能力を身に付けているか。 【知識・理解】 生活産業に関する基礎的な知識・技術を身につけ、生活産業の社会的な意識や役割を理解しているか。 以上の観点から定期考査を中心に、授業態度、課題等の提出物などを総合的に評価する。また、授業や実習への参加態度や感想から、何を学んだかを評価する。
使用教材	・教科書「生活産業基礎」実教出版 ・副教材「秘書実務（高等学校用教科書）」早稲田教育出版 ・副教材「秘書検定実問題集 2021 年度版」早稲田教育出版 ・学習プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	子どもの発達と保育	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育に関する知識と技術を習得し、実習等を通して保育の重要性を知る。子どもの健全な成長に関心を持ち、子育てにかかわろうとする意欲や実際にかかわることができる能力を身につける。				
授業計画	— 1学期 — 子どもの発達の特性 生涯発達での乳幼児期の意義 発達と保育環境 児童観と発達観 子どもの発達の過程 子どもの発育 子どもの精神発達 人間関係の発達 — 2学期 — 子どもの生活 生活と養護 子どもの遊び 生活習慣の形成 健康管理と事故防止 — 3学期 — 子どもの保育 保育の意義と重要性 家庭保育と集団保育 保育の方法 子どもの福祉 子どもの福祉 子育て支援				
学習方法とアドバイス	・新聞の切り抜き等を利用し、身近なものとして保育を捉える。 ・保育実習・作品制作を通して、保育の重要性、関心を高める。				
評価の観点と方法	「発達と保育」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 子どもの発達と保育などに関心を持ち、子どもの健全な成長を図ることをめざして意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 子どもの健全な成長に関する問題解決のために学習した知識・技術をいかせるように工夫しているか。 【技能】 子どもの発達の特徴、生活に関する技術を身につけ、適切に幼児にかかわり、その結果を適切に表現できているか。 【知識・理解】 子どもの発達の特徴、生活と保育に関する基礎的な知識を理解しているか。 以上の観点から、定期考査（年間5回）、取り組みの姿勢、作品、レポート、課題などの提出物で総合的に評価する。				
使用教材	教科書「子どもの発達と保育」実教出版 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価		反省等
1学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	子ども文化	2	2年	生活デザイン科 (保育子ども文化コース)	全員

学習目標	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得するとともに、子ども文化の充実を図る能力と態度を身につける。				
授業計画	1学期	児童文化とは何だろう 子どもと表現活動	造る・描く	作品作りと発表	
	2学期	子どもと文学 子どもと遊び	絵本 遊びの意義と発達	作品作りと発表	
	3学期	子どもと表現活動	言語表現活動 歌う・踊る・演奏する	作品作りと発表	
学習方法と アドバイス	- 教科書やプリントを用いて、講義を受ける。 - 絵本の読み聞かせや歌の練習、折り紙やパネルシアターなどの児童文化活動も取り入れる。 - 講義で学習した知識や技術を生かして、実際に乳幼児と触れ合う。 - 子ども文化で学習したことをもとに、保育技術検定を受験する。				
評価の観点と 方法	「子ども文化」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持ち、自主的に活動できているか。 意欲的に交流体験に参加し、積極的に行動できているか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 実習などから得られる結果を科学的に考察し、次の実習につなげることができるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に表現できているか。 【技能】 子どもと生活をするのに必要な基礎・基本的な技術を身につけ、実際の活動に応用できるか。 【知識・理解】 子どもとの生活に関する基礎・基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、交流活動への取り組みの姿勢、レポート・作品等の提出物など総合的に評価する。				
使用教材	教科書「子ども文化」教育図書出版 副教材「保育技術検定 過去問題集」 全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	子どもの発達と保育	2	2年	生活デザイン科 (保育子ども文化コース)	全員

学習目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育に関する知識と技術を習得し、実習等を通して保育の重要性を知る。特に、子どもの発育と健康管理を中心に学習し、家庭看護の充実を図る能力と態度を養う。		
授業計画	1 学期	子どもの発達の過程 子どもの発育	実習
	2 学期	子どもの生活 生活と養護	看護体験実習
	3 学期	子どもの生活 健康管理と事故防止	看護体験実習
学習方法と アドバイス	・ 授業で学ぶ知識や技術を保育実習に生かせるように、自分自身の生活の中からも課題を見つけながら学習する。 ・ 看護体験実習を行うことにより家庭での看護の基本的知識や技術を学習する。		
評価の観点と 方法	「子どもの発達と保育」では以下の 4 つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味関心を持ち、積極的に行動ができているか。 【思考・判断・表現】 子どもの健全な成長に関する問題解決のために、学習した知識・技術を活かせるように工夫しているか。 【技能】 乳幼児の世話をするのに必要な基礎・基本的な技術を身につけ、実習で活用できるか。 【知識・理解】 基礎・基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、実技テストや課題などの提出物から総合的に評価する。		
使用教材	教科書「子どもの発達と保育」実教出版 副教材「保育技術検定 過去問題集」 全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等		

考 査	取り組みの状況・自己評価		反省等
1学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期			学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	服飾文化	2	2年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	被服の基本と文化、着装などに関する知識と技術を習得させ、服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につける。
授業計画	1 学期 Ⅰ 日常着(シャツブラウス)の製作 2 学期 Ⅱ 手芸作品の製作 Ⅲ 棒針基礎編み 3 学期 編み物(マフラー)の製作
学習方法と アドバイス	・ 作品の製作を通して、被服の基本等の知識と技術を習得させることを目標に、毎時間計画を立てて能率良く実習を行う。 ・ 欠席等で作業が遅れた場合は、放課後等を利用して指導し、次の授業までに進めておく。 ・ 完成した作品を利用し、基本的な着装について実習する。
評価の観点と 方法	「服飾文化」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 日常着や編み物などの製作および着装に関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 服飾文化の伝承と創造に寄与することを目指して思考を深め、適切な判断で創意工夫し、着装を新たな発想で表現する能力を身につけているか。 【技能】 日常着や編み物などの製作に関する技術を身に付け、服飾文化を伝承したりすることができているか。 【知識・理解】 日常着や編み物などの製作に関する知識を身に付け、着装形式の特徴、気候生活スタイルと被服のかかわりを理解しているか。
使用教材	授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1 学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2 学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3 学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	服飾文化	2	2年	生活デザイン科 (保育子ども文化コース)	全員

学習目標	被服の基本と文化、着装などに関する知識と技術を習得させ、服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につける。
授業計画	1学期 Ⅰ 作業着(保育エプロン)の製作 2学期 Ⅱ 手芸作品の製作 Ⅲ 棒針基礎編み 3学期 Ⅳ 編み物作品(マフラー)の製作
学習方法と アドバイス	・作品の製作を通して、被服の基本等の知識と技術を習得させることを目標に、毎時間計画を立てて能率良く実習を行う。 ・欠席等で作業が遅れた場合は、放課後等を利用して指導し、次の授業までに進めておく。 ・完成した作品を利用し、基本的な着装について実習する。
評価の観点と 方法	「服飾文化」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 日常着や編み物などの製作および着装に関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 服飾文化の伝承と創造に寄与することを目指して思考を深め、適切な判断で創意工夫し、着装を新たな発想で表現する能力を身につけているか。 【技能】 日常着や編み物などの製作に関する技術を身に付け、服飾文化を伝承したりすることができているか。 【知識・理解】 日常着や編み物などの製作に関する知識を身に付け、着装形式の特徴、気候生活スタイルと被服のかかわりを理解しているか。
使用教材	授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	ファッション造形基礎	4	2年	生活デザイン科 (服飾デザインコース)	全員

学習目標	被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させ、被服を創造的に製作する能力を身につける。
授業計画	1学期 Ⅰ シャツブラウス製作 2学期 Ⅱ 裏付きジャケット製作 3学期 Ⅲ 裏付きジャケット製作 裏付きスカート製作
学習方法と アドバイス	・ 作品については期限内に完成させることを目標に、毎時間計画を立てて能率良く実習を行う。 ・ 欠席等で作業が遅れた場合は、放課後等を利用して次の授業までに進めておく。 ・ 被服製作技術検定については筆記・実技ともに復習をしっかりとし、落ち着いて取り組む。
評価の観点と 方法	「ファッション造形基礎」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 被服製作に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 用途や着用目的にあった被服材料の選択でき、合理的な製作の計画を考えることができるか。 【技能】 作品に適した縫製技術を身に付け、自分の体型・個性にあった被服製作ができるか。 【知識・理解】 被服製作に関する基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査（年間5回）を中心に取り組みの姿勢や被服技術検定の結果、作品等で総合的に評価する。
使用教材	教科書「ファッション造形基礎」実教出版 授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	ファッションデザイン	2	2年	生活デザイン科 (服飾デザインコース)	全員

学習目標	ファッションデザインの基礎や表現法に関する知識と技術を習得し、デザイン感覚を養い、自分のイメージを表現する能力と実践的な態度を身につける。
授業計画	1学期 1 ファッションの変遷 2 ファッションデザインの意味 3 ファッションデザイン画の基礎 4 ファッションデザインの発想と表現法 2学期 5 ファッションデザインと色彩 6 ファッションデザインと形態 3学期 7 ファッション産業 ・ファッション産業の仕組み、動向について ・商品企画
学習方法と アドバイス	・調べ学習等を通して身の回りのファッションデザインに興味関心を持つ。 ・色彩の様々な表現方法を、実習を通して身につける。 ・アパレルメーカーにおける商品企画を取り上げ、企画書やファッションマップの作成の実習を通して商品企画の基礎・基本を理解する。
評価の観点と 方法	ファッションデザインでは以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 ファッションデザインの基礎、発想と表現法、商品企画などに関心を持ち、ファッションを創造的にデザインすることを目指して意欲的に取り組んでいるか、実践的な態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ファッションを創造的にデザインすることを目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用し創意工夫する能力を身に付けているか。 【技能】 ファッションデザインの基礎、発想と表現法、商品企画などに関する技術を身に付け、デザインの発想をファッション画や各種材料によって表現できているか。 【知識・理解】 ファッションデザインの基礎、発想と表現法、商品企画などに関する知識を身に付け、ファッション産業の意義と役割を理解しているか。 以上の観点から定期考査（年間5回）を中心に取り組みの姿勢や作品等で総合的に評価する。
使用教材	・教科書「ファッションデザイン」文部科学省 ・副読本「ファッション&ビューティーの色彩」日本色彩研究所 ・学習プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	フードデザイン	4	2年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と実践的な態度を身に付ける。		
授業計画	1学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画	フードデザイン実習
	2学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本	フードデザイン実習
	3学期	調理の基本 献立作成 食育 料理様式とテーブルコーディネート	フードデザイン実習
学習方法と アドバイス	・教科書、補助教材を用いて講義を受けるとともに、実験実習も行う。 ・調理実習ノートに献立の栄養計算、作り方、調理の要点などを記入し、レポートとして提出する。 ・学んだ食品の特性や調理理論を活用し、料理コンクールに応募する料理を考える。		
評価の観点と 方法	「フードデザイン」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 食事に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 食生活に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。また、その成果を的確に表現できたか。 【技能】 調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 食事に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、食品の扱い方等の実習態度、調理ノート等の提出物などを総合的に評価する。また、授業や実習への参加態度や感想から何を学んだかを評価する。		
使用教材	教科書「フードデザイン」 実教出版 副教材「オールガイド食品成分表」 実教出版 副教材「家庭科問題集 食物編」 全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等		

考 査	取り組みの状況・自己評価		反省等
1学期			学習の意欲・取り組み A・B・C
			学習内容の理解 A・B・C
2学期			学習の意欲・取り組み A・B・C
			学習内容の理解 A・B・C
3学期			学習の意欲・取り組み A・B・C
			学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	フードデザイン	2	2年	生活デザイン科 (服飾デザイン・保育子ども文化コース)	全員

学習目標	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と実践的な態度を身に付ける。		
授業計画	1 学期	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画	フードデザイン実習
	2 学期	食品の特徴・表示・安全 調理の基本	フードデザイン実習
	3 学期	調理の基本 献立作成 料理様式	フードデザイン実習
学習方法と アドバイス	・教科書・補助教材を用いて講義を受けるとともに、実験実習も行う。 ・講義で学習した知識を生かして、場面に応じた献立やテーブルコーディネートを考え、調理実習する。 ・調理実習ノートに献立の作り方、調理の要点などを記入して提出する。		
評価の観点と 方法	「フードデザイン」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 食事に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 食生活に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。また、その成果を的確に表現できたか。 【技能】 調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 食事に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、食品の扱い方等の実習態度、調理ノート等の提出物などを総合的に評価する。また、授業や実習への参加態度や感想から、何を学んだかを評価する。		
使用教材	教科書「フードデザイン」 実教出版 副教材「オールガイド食品成分表」実教出版 「家庭科問題集」全国高等学校家庭科教育振興会 「テーブル・カラー・コーディネート」日本色研事業株式会社 学習プリント 等		

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	調理	2	2年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	調理に関する幅広い知識・技術を主に調理実習・調理実験によって習得し、実践的な態度を身に付ける。また、様式別調理に関する知識と技術を習得し、食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を身に付ける。		
授業計画	— 1学期 — 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 調理実習・実験	— 2学期 — 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 行事食・供応食 特殊栄養食 調理実習・実験	— 3学期 — 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 調理実習・実験
学習方法と アドバイス	・教科書、補助教材を用いて調理法や食物の調理性などについて講義を受け、調理実習のねらいを理解する。 ・実習のねらいを理解した上で、調理実習をする。 ・調理実習ノートに献立の栄養価計算、作り方、調理の要点などを記入し、レポートとして提出する。 ・食物調理技術検定2級の取得、および各種コンテスト等に挑戦する。 ・実技テストに向けて、調理実習の時間だけでなく家庭でも練習に取り組む。		
評価の観点と 方法	「調理」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 調理について関心をもち、授業や実習に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 調理法や食品の扱い方、調理の手順について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。また、その成果を的確に表現できたか。 【技能】 調理や盛りつけ、配膳に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。コンクール課題に対して、食材の特性を生かした料理を創作することができたか。 【知識・理解】 調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、実習態度、実技テスト、調理ノート等の提出物などを総合的に評価する。また、授業や実習への参加態度や感想から、何を学んだかを評価する。		
使用教材	副教材「調理1」「調理2」実教出版 副教材「オールガイド食品成分表」実教出版 学習プリント 等		

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A; 優れている。 B; 普通。 C; 努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	さぬきの生活伝承	2	2年	生活デザイン科	全員

学習目標	自分たちが生まれ育った郷土の生活文化について学ぶことを通し、郷土に対する愛着心を持つと共に、生活文化の伝承や創造に寄与する能力や態度を育てる。
授業計画	1学期 春夏の代表的な食品加工・郷土料理作りや郷土の手工芸品の製作を行う 2学期 秋の代表的な郷土料理・保存食作りや郷土の手工芸品の製作を行う 3学期 冬の代表的な郷土料理・行事食作りや郷土の手工芸品の製作を行う 学期を問わず、郷土の生活文化について調べ学習を行い、成果の発表を行う
学習方法とアドバイス	・調べ学習では、書籍等で郷土の生活文化について調べると共に、自分の住む地域や各家庭に伝わる生活文化について関心を持ち、自分も文化の伝承者となる自覚を持ちながら学習に取り組む。 ・調理実習では、伝統的な料理を知り、その調理技術を身につけると共に、料理にこめられた先人の思いや工夫を学びながら実習に取り組む。 ・手工芸品の製作については、技術を身につけると共に、その手工芸品が作られるようになった背景についても考える。 ・作品やレポートには計画的に取り組む、期限内に必ず提出する。
評価の観点と方法	「さぬきの生活伝承」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持って臨み、積極的に行動できているか。 郷土の生活文化に関心を持ち、学習に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 生活文化の生まれた背景など先人の知恵や工夫について考えているか。 残していくべき生活文化の大切さに気づけているか。 学習成果を分かりやすくまとめ、発表につなげることができたか。 【技能】 郷土に伝わる調理法を身につけることができたか。 伝統的な手工芸品の製作技法を知り、作品をつくることができたか。 【知識・理解】 郷土の生活文化に関する知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢、実習態度や課題等の提出状況、作品の技術などを総合的にみて評価する。
使用教材	プリント教材

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

2年組番	氏名
------	----